

[精神保健福祉センター事業概要]

I 技術指導及び技術援助活動

保健福祉事務所及び関係機関に対し専門的立場から指導と援助を行った。

(1) 保健福祉事務所に対する援助

内 容	保健福祉事務所		仙 台			北 部 (栗原)	東 部	東 部 (登米)	気 仙 沼 沼	仙 台 市	県 外	計
	南	塩 釜	(再 掲)									
			岩 沼	黒 川								
老人精神保健	1						1	1				3
社会復帰	6	8	(8)		5	4		2	6			31
アルコール	1					1	1					3
薬												
思春期保健	1							1	1			3
心の健康づくり	3	1					1	3	8			16
ひきこもり	2						1	2	3			8
自殺関連	1	1			2		2					6
犯罪被害												
その他	3	18	(1)		10	4	18	3	10			66
計	18	28	(9)		17	9	23	12	29			136
(再掲)事例検討		8	(8)		1	1						10
(再掲)事業推進会議	3	4	(1)		4	1	7	2	5			26
(再掲)災害関連		3					10		4			17

(2) その他の機関に対する技術援助

内 容	関係機関	市 町 村	医 療 施 設	福 祉			そ の 他				計	
				介 護 保 険 施 設 等	障 害 者 支 援 施 設	社 会 福 祉 施 設	教 育 機 関 等	産 業 (労 働)	司 法 関 係	学 生 教 育 ・ 実 習		そ の 他
老人精神保健		6										6
社会復帰		33	9		2				9		14	67
アルコール		7	2								5	14
薬											1	1
思春期保健		4									1	5
心の健康づくり		35		2		1		9			10	57
ひきこもり		14					3				15	32
自殺関連		18					4				27	49
犯罪被害									1			1
その他		40		2	2	1	1			1	95	142
計		157	11	4	4	2	8	9	10	1	168	374
(再掲)震災関連		28		2		1	1	3			51	86

II 教育研修

精神保健福祉センター主催の研修会

保健福祉事務所、精神病院、社会復帰施設、学校等の精神保健及び福祉に関する職員に対して、次のような研修会を実施した。

研修名	対象	目的	内容	開催期日	参加人数
精神保健福祉基礎講座 I	市町村・保健福祉事務所等関係職員、精神科医療機関・相談支援事業所等で精神障害者の相談支援に携わる経験年数の浅い者	精神障害に関する基礎知識や支援について習得し、精神障害者の理解を深め、より良い支援の提供を目指すとともに地域で活動するための連携の強化を図る。	・講義1「精神保健福祉法改正の概要について」 精神保健福祉センター 所長 西條 尚男 ・講義2「精神疾患の基礎知識について」 ～代表的な疾患の理解と対応上の留意点～ 災害後のメンタルヘルスについて～ 講師 精神保健福祉センター 技術副参事兼技術次長 小原 聡子 ・講義3「精神障害者の理解と支援について」 ～体験を通して～ 講師 当事者 原田 幾世 氏 ・グループワーク「お互いの活動を知ろう」	平成 26 年 5 月 12 日(月)	107 名
精神保健福祉基礎講座 II	同上	面接の意義や重要性を確認すると共に、話の聴き方等基本姿勢を習得しより相手の気持ちや状況に寄り添った面接が実践できるようになる。	・講義・演習「相談支援のための面接技術について」 講師 みやぎ心のケアセンター 副センター長 山崎 剛 氏 みやぎ心のケアセンター石巻地域センター 保健師 桑島 由美 氏	5 月 29 日(木)	56 名
精神保健福祉実践講座 I	市町村・保健福祉事務所等関係職員、精神科医療機関・相談支援事業所等職員	人格障害に関する理解を深め、適切な対応方法を学ぶことを目的とする。	・講義「パーソナリティ障害の理解と対応について」 講師 当センター 技術次長 水本 有紀	10 月 30 日(水)	50 名
精神保健福祉実践講座 II	同上	思春期・成人期の発達障害について理解を深め、よりよい支援の提供につなげる。	・講義「青年期・成人期の発達障害について」 講師 宮城県立精神医療センター 医療局長 船越 俊一 氏	12 月 19 日(金)	74 名
退院支援に係る医療と福祉の連携推進研修会 ※仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)共催	市町村・保健福祉事務所等関係職員、精神科医療機関・相談支援事業所等職員	法改正により、精神障害者の退院促進のための体制整備が義務づけられた。対象者の円滑な地域移行の為に、医療福祉の連携を推進する。	・講演「医療と福祉の連携を推進するために着目しておきたいこと～改正精神保健福祉法をふまえたそれぞれの役割について～」 講師 医療法人立川メディカルセンター 茨内地域生活支援センター施設長 岡部 正文 氏 ・話題提供「改正精神保健福祉法を受けての実際の取組」 講師 精神医療センター社会生活支援部 副部長兼医療福祉相談科長 佐竹 嘉裕 氏 ・グループワーク「医療と福祉の連携のために今自分がしていること、これからしたいこと」 助言者 医療法人立川メディカルセンター 茨内地域生活支援センター施設長 岡部 正文 氏	11 月 19 日(水)	122 名
思春期問題研修会	市町村・保健福祉事務所関係職員、高等学校教諭、警察関係職員、精神科医療機関職員、思春期相談関係職員等	思春期青年期特有の問題に関わる支援者が効果的な支援方法について学び、学校や地域の場で活かせる知識や技術の習得を目的とする。	・講演「ネット依存について」 講師 久里浜医療センター 佐久間 寛之 氏	平成 27 年 2 月 4 日(水)	93 名

研修名	対象	目的	内容	開催期日	参加人数
アルコール関連問題研修会	市町村、保健所、精神科医療機関、相談支援事業所等関係職員	アルコール問題を抱えた方への早期介入や回復を支えていくための方法について学び、地域での支援に活用できるようになる。	・講義「アルコール相談・早期発見と介入」 講師 久里浜医療センター 医療社会事業専門職 藤田 さかえ 氏 ・事例検討 事例提供者 塩竈市健康推進課 保健師 林崎 智子 氏 進行・助言 久里浜医療センター 医療社会事業専門職 藤田 さかえ 氏	平成26年 7月30日(水)	60名
地域自死対策研修会Ⅰ	市町村・保健所自死対策担当者等	地域において自死ハイリスク者への早期対応の中心的役割を担うゲートキーパーの養成を促進し、その後の活動を効果的に広げる研修リーダー、ファシリテーターを育成する。	・講義及び演習 「地域におけるゲートキーパーの役割」 「ゲートキーパー養成研修用プログラムについて」 講師 岩手医科大学医学部 災害・地域精神医学講座 特命教授 大塚 耕太郎 氏	9月19日(金)	13名
地域自死対策研修会Ⅱ	市町村・保健所等関係職員、精神科医療機関職員、相談支援事業所関係職員等	アルコール問題がある者等の支援困難な事例に活用できるよう、「変わらない」相談者への働きかけや動機付け面接法の実践を学ぶ。	・講義及び演習 「動機付け面接法」 ー「変わらない人」を「変わる人」へ誘導するー 講師 成増厚生病院 診療部長(精神科医) 後藤 恵 氏	10月22日(水)	42名
自死遺族支援シンポジウム ※自死遺族支援連絡会主催	自死遺族、市町村・保健所・教育・その他自死遺族支援に関わる機関、関心のある一般県民	安易に使われる「自殺」という言葉が、更に遺族を苦しめることがある。「自殺」から「自死」への言い換えの意味を通して自死について深く理解することを目的とする。	・シンポジウム 「自死という言葉を知っていますか」 コーディネーター 河北新報社 寺島 英弥 氏 土井法律事務所 土井 浩之 氏 シンポジスト ・仙台わかちあいのつどい藍の会代表 田中 幸子 氏 ・東北希望の会代表(過労死・過労死自死遺族とサポーターの会) 前川 珠子 氏 ・仙台的のちの電話事務理事 田中 吟子 氏 ・仙台グリーフケア研究会代表 滑川 明男 氏 ・仙台市障害者支援課長 石川 浩之 氏	9月20日(土)	60名
若年者メンタルヘルス対策研修会	市町村・保健所等関係職員、高等学校教諭・養護教諭等、スクールカウンセラー、大学健康管理室等担当者、若年者支援機関関係職員等	若い世代の自死者は減っておらず、若年者メンタルヘルス対策は重要な課題といえる。地域で若年者支援に取り組めるよう、現代の若者の現状を共有し支援のあり方を考える。	・シンポジウム「現代(いま)の若者の生きづらさを考える」 コーディネーター 和歌山県精神保健福祉センター 所長 小野 善郎 氏 シンポジスト ・高校の現場から 宮城県美田園高等学校コーディネーター 教諭 川上 芳夫 氏 ・大学の現場から 東北大学学生相談・特別支援センター 副センター長 池田 忠義 氏 ・若年者支援に携わるNPOの活動から 特定非営利法人 Switch 理事長 高橋 由佳 氏 ・わかものハローワークの現状 仙台わかものハローワーク 上席職業指導官 木村 有紀子 氏	平成27年 2月18日(水)	73名

研修名	対象	目的	内容	開催期日	参加人数
復興期のこころのケア研修会Ⅰ ※みやぎ心のケアセンター共催	市町村・保健福祉事務所関係職員	長期的に住民のメンタル面を継続して把握し、支援していくことの重要性について学び、効果的な被災者支援活動が展開できることを目的とする。	・講話「心のケアセンターの3年間の活動とこれからの課題」 講師 みやぎ心のケアセンター 地域支援部長 福地 成 医師 ・グループワーク 「3年間の気づきとこれからの課題」	平成26年 12月9日(火)	31名
復興期の心のケア研修会Ⅱ ※みやぎ心のケアセンター共催	市町村・保健福祉事務所関係職員、精神科医療機関、心のケアセンター職員等	被災地域では今後自死の増加が懸念されており、自死が起きてしまった場合の支援者の心構えやポストベンション(事後対応)について学ぶことを目的とする。	・講話「ポストベンション～自死が起きてしまった時の支援者の心構えと対応について～」 講師 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 自殺予防総合対策センター 自殺予防対策支援研究室 室長 川野 健治 氏	平成27年 1月9日(金)	57名
ひきこもり支援関係者研修基礎講座	市町村・保健福祉事務所関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員等	ひきこもりに関わる支援者が、ひきこもりについての理解を深めるとともに支援を継続するために関係者間の連携を図ることを目的とする。	・講話1「ひきこもりの理解と支援」 講師 当センター 技術次長 水本 有紀 ・講話2「当事者の立場から」 講師 家族の立場 当事者の立場 ・情報交換	平成26年 8月7日(木)	78名
ひきこもり支援関係者研修実践講座	市町村・保健福祉事務所関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員等	ひきこもりに関わる支援者が、ひきこもりについての理解を深め、段階に応じた具体的な支援を学ぶとともに様々な支援機関の活動を知り、連携を図ることを目的とする。	・講話「ひきこもりにおける家族支援」 講師 当センター 技術次長 水本 有紀 ・事例検討 助言者 社会福祉法人わたげ福祉会 秋田 敦子 氏	平成27年 1月21日(水)	46名

Ⅲ 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために、精神保健の諸問題を調査研究するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料を収集整備した。

1. 災害関係

(1) 第 50 回全国精神保健福祉センター研究協議会報告

「東日本大震災における宮城県精神保健福祉センターの支援者支援活動～県行政職員等へのメンタルヘルス支援の取組」

(2) ひょうご DPAT 研修（兵庫県こころのケアセンター主催）報告

(3) DPAT 活動指針検討会（国立精神・神経医療研究センター主催）出席 2 回

2. 自死対策関係

(1) 所内検討会（ワーキンググループ）8 回

(2) 「宮城県救急医療機関における自殺未遂者に関する実態調査」を実施

(3) 自死予防情報センター設置について検討

3. 若年者支援

(1) 「市町村におけるひきこもり相談支援に関する現況調査」を実施し、紀要 42 号に掲載

(2) 第 57 回日本病院・地域精神医学会総会分科会報告

「ひきこもり地域支援センターの開設に向けた精神保健福祉センターの支援体制整備」

4. 「地域における申請・通報事例への対応状況調査」を実施し、紀要 42 号に掲載

5. 紀要第 42 号発行，関係機関に配布，ホームページに掲載

IV 広報普及活動

一般県民及び関係機関に対して精神保健福祉の知識の普及を図る目的で次のような活動を行った。

1. 講話等

- (1) 広報課みやぎ出前講座「働く人の心の健康～うつ病を中心に～」への講師派遣 9回8カ所
- (2) 市町村等における講話等への講師派遣 14回（自死対策関係除く）

2. 「メンタルヘルスガイド ほっとするー（第3版）」の増刷

精神障害者とその家族が利用できる精神保健福祉制度やサービス，社会資源等をまとめ，500部増刷し，保健福祉事務所，市町村，みやぎ心のケアセンター等の関係機関に配布した。

V 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳

精神障害者の医療及び福祉を充実するため，自立支援医療（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の交付を行った。

1. 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳審査会の開催

委員 10名（うち県職員3名）

開催回数 24回（月2回開催）

2. 自立支援医療（障害者自立支援法第54条）

申請者数 18,166人 承認者数 18,144人

3. 精神障害者保健福祉手帳（精神保健福祉法第45条）

申請者数 3,492人 交付者数 3,466人（内新規者数 623人）

VI 精神医療審査会

精神障害者に対して人権に配慮した適正な医療及び保護の確保を図るため、宮城県精神医療審査会における医療保護入院者入院届、定期病状報告書、退院等請求の審査等を行った。

区 分	件 数
精神医療審査会 委員 19人 開催回数 全体会 1回 会長・班長会議 1回 合 議 体 24回	医療保護入院者入院届 1,535件 措置入院者定期病状報告書 17件 医療保護入院者定期病状報告書 1,017件 退 院 等 請 求 14件 合 計 2,583件
指定病院強化対策補助事業 医療保護入院届け及び定期病状報告書 に係る文書料	対象病院 20ヶ所 合 計 2,410件 7,230,000円

VII 組織の育成

地域精神保健活動の向上を図るため、地域住民参加による組織的な活動が行われるように、下記の団体等の育成に努めた。

団体名	援助回数	主な支援内容	従事職員延数
宮城県精神保健福祉協会	8	精神保健福祉大会の支援、組織運営に関する支援	29
宮 城 県 断 酒 会	24	組織育成支援	会場の提供
宮城県自死遺族支援連絡会	5	各団体の活動状況等情報交換、連携体制づくりへの支援	10
みやぎ心のケアセンター	20	震災対応や組織運営等に関する支援	21

VIII 精神保健福祉相談

精神保健及び精神障害者福祉の相談・指導を行った。特に、複雑又は困難な相談に対応した。さらに、アルコール・薬物・思春期等の特定相談を実施した。

1. 来所相談

(1) 年度別推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
新規相談実件数	71	84	85	82	116
前年度からの継続実件数	40	18	25	31	35
合計（実件数）	111	102	110	113	151
相談者総数（延件数）	513	308	435	441	618

(2) 性別・年齢別相談件数（実人数）

性別	年齢								計
	12歳以下	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上		
男	1	19	27	24	12	2	3	88	
女	0	11	20	11	12	8	1	63	
計	1	30	47	35	24	10	4	151	

(3) 相談延件数

性別	年齢								計
	12歳以下	13～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上		
男	1	90	105	80	55	6	4	341	
女	0	47	106	46	42	35	1	277	
計	1	137	211	126	97	41	5	618	

(4) 来所経路別相談件数 (実人数)

事業 来所経路	社会復帰	アルコール 関連	薬物関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	老人保健	その他	計
自発的来所	1	1	0	10	38	7	0	16	73
家族や知人からの勧め	0	0	0	2	15	2	0	3	22
センターの電話相談から	0	0	0	1	1	1	0	0	3
医療機関からの紹介	0	1	0	3	6	1	0	3	14
保健所からの紹介	0	0	0	1	3	0	0	1	5
市町村からの紹介	0	0	0	4	5	0	0	2	11
教育機関からの紹介	0	0	0	7	3	0	0	1	11
その他の公的機関からの紹介	1	0	0	0	8	1	0	0	10
その他の機関からの紹介	0	0	0	0	2	0	0	0	2
計	2	2	0	28	81	12	0	26	151

(5) 相談内容別相談件数 (実人数)

事業 内容	社会復帰	アルコール 関連	薬物関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	老人保健	その他	計
心の不調	a 不安・抑うつ 的訴え	0	0	0	6	2	0	1	9
	b 強迫的訴え	0	0	0	0	0	0	0	0
	c 悲嘆反応・喪 失感	0	0	0	2	0	0	0	2
	d PTSD	0	0	0	0	0	0	0	0
	e その他	0	0	0	3	12	4	6	25
体の不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家族の問題	a 家庭内暴力	0	0	0	0	0	0	0	0
	b DV	0	0	0	1	2	0	0	3
	c その他	0	0	0	4	25	3	4	36
子育て・介護 の問題	a 出産・育児	0	0	0	0	0	0	0	0
	b 虐待	0	0	0	0	0	0	0	0
	c 介護の問題	0	0	0	0	0	0	0	0
	d その他	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係の問題	0	0	0	3	10	0	0	3	16
生活・仕事・経 済的な問題	a 仕事・職場の 問題	0	0	0	2	6	1	1	10
	b 生活の問題	0	0	0	0	1	0	0	1
	c その他	0	0	0	2	13	1	7	23
学校の問題	a いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0
	b 不登校	0	0	0	9	1	0	0	10
	c その他	0	0	0	2	0	0	0	2
依存症の問題	a アルコール関 連	0	2	0	0	1	0	0	3
	b 薬物問題	0	0	0	0	0	0	0	0
	c キャンブル関 連	0	0	0	0	0	0	2	2
	d その他	0	0	0	2	0	0	0	2
非行・反社会的行動	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病気・治療について	2	0	0	0	1	1	0	1	5
その他	a 自分の性格	0	0	0	0	1	0	0	1
	b 性・異性	0	0	0	0	0	0	0	0
	c その他	0	0	0	0	0	0	1	1
計	2	2	0	28	81	12	0	26	151

(6) 保健福祉事務所別相談件数（実人数）

事業 管轄	社会復帰	アルコール	薬物関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	老人保健	その他	計	割合%
仙 南	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1.3%
仙 台	塩 釜	1	1	0	0	4	0	3	9	6.0%
	岩 沼 支 所	0	0	0	1	2	0	0	3	2.0%
	黒 川 支 所	0	0	0	2	7	0	3	12	7.9%
北 部	1	1	0	14	44	9	0	13	82	54.3%
北 部（栗原）	0	0	0	7	7	1	0	3	18	11.9%
東 部（登米）	0	0	0	2	6	0	0	2	10	6.6%
東 部	0	0	0	2	8	1	0	0	11	7.3%
気 仙 沼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
仙 台 市	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1.3%
そ の 他	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1.3%
計	2	2	0	28	81	12	0	26	151	100.0%

(7) 年度末処理状況

事業 処遇	社会復帰	アルコール	薬物関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	老人保健	その他	計
終 了	2	1	0	15	45	9	0	21	93
次 年 度 へ 継 続	0	1	0	13	36	3	0	5	58
計	2	2	0	28	81	12	0	26	151

2. 電 話 相 談

(1) 性別・年齢別相談件数（延件数）

相談対象者	年齢	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	年齢不詳	計	合計
一般電話	男	5	14	39	63	25	16	8	18	188	440
	女	11	10	35	49	53	24	13	14	209	
	不明	6	4	1	0	1	0	1	30	43	
こころの相談電話	男	3	19	252	529	139	141	12	7	1,102	2,468
	女	15	16	47	156	589	157	174	14	1,168	
	不明	2	0	0	0	0	0	0	196	198	
合 計		42	63	374	797	807	338	208	279	2,908	2,908

(2) 職業別・年齢別相談件数 (延件数)

職業別	年齢	年齢							計
		15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
学 生		37(0)	41(0)	13(0)	0(0)	4(0)	1(0)	0(0)	96(0)
会 社 員		1(0)	1(0)	37(0)	48(0)	38(0)	47(0)	2(0)	183(2)
自 営 業		0(0)	0(0)	1(0)	4(0)	9(0)	7(1)	3(2)	25(3)
アルバイト・パート		0(0)	2(0)	23(0)	88(1)	157(0)	22(0)	6(0)	301(1)
主 婦		0(0)	0(0)	8(0)	34(0)	222(2)	53(0)	69(1)	390(3)
そ の 他		2(0)	0(0)	4(0)	20(1)	9(0)	22(0)	0(0)	59(1)
無 職		2(0)	10(0)	223(0)	471(5)	266(2)	85(1)	102(0)	1,164(8)
不 明		0(0)	9(0)	65(0)	132(0)	102(3)	101(0)	26(1)	690(5)
計		42(0)	63(0)	374(0)	797(7)	807(7)	338(2)	208(4)	2,908(23)

※ () は震災に関する相談の再掲

(3) 相談種別ごとの電話のかけ手 (延件数)

相談種別	かけ手				計
	本人	家族	友人・同僚	その他	
社 会 復 帰	9(0)	0(0)	0(0)	0(0)	9(0)
ア ル コ ー ル	19(0)	13(0)	0(0)	3(0)	35(0)
薬 物	3(0)	4(0)	0(0)	1(0)	8(0)
思 春 期	19(0)	52(0)	1(0)	5(0)	77(0)
心の健康づくり	1,193(7)	83(2)	4(0)	45(2)	1,325(11)
うつ・うつ状態	99(1)	23(1)	1(0)	3(0)	126(2)
老人精神保健	0(0)	6(1)	1(0)	1(0)	8(1)
そ の 他	1,204(7)	80(0)	6(0)	30(2)	1,320(9)
計	2,546(15)	261(4)	13(0)	88(4)	2,908(23)

※ () は震災に関する相談の再掲

(4) 相談種別による処遇内訳件数 (延件数)

相談種別	処遇内容				計
	助言指導	来所予約	医療機関紹介	その他の機関紹介	
社 会 復 帰	7(0)	0(0)	0(0)	2(0)	9(0)
ア ル コ ー ル	25(0)	1(0)	2(0)	7(0)	35(0)
薬 物	4(0)	0(0)	3(0)	1(0)	8(0)
思 春 期	46(0)	13(0)	11(0)	7(0)	77(0)
心の健康づくり	1,198(10)	39(0)	24(1)	64(0)	1,325(11)
うつ・うつ状態	103(2)	7(0)	8(0)	8(0)	126(2)
老人精神保健	2(0)	0(0)	3(1)	3(0)	8(1)
そ の 他	1,233(9)	22(0)	23(0)	42(0)	1,320(9)
計	2,618(21)	82(0)	74(2)	134(0)	2,908(23)

※ () は震災に関する相談の再掲

IX アルコール関連問題に関する相談指導事業

1. 来所相談（精神保健福祉相談のうちアルコール関連問題の相談を再掲）

(1) 性別・来談者別相談件数（実人数）

性別 \ 区分	本人のみ	本人及び家族	家族のみ	関係者及び家族	計
男	0	0	1	0	1
女	1	0	0	0	1
計	1	0	1	0	2

(2) 性別・年代別相談件数（実人数）

性別 \ 区分	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	0	0	1	1
女	0	0	0	1	0	0	1
計	0	0	0	1	0	1	2

(3) 処遇結果（実人数）

性別 \ 処遇	助言・終了	センター外来	継続	保健所紹介	医療機関紹介	他機関紹介	計
男	1	0	0	0	0	0	1
女	0	0	1	0	0	0	1
計	1	0	1	0	0	0	2

X 思春期関連問題相談事業

1. 来所相談（精神保健福祉相談のうち思春期関連問題の相談を再掲）

(1) 性別・来談者別相談件数（実人数）

性別 \ 区分	本人が来所	本人及び家族	本人及び関係者	本人、家族及び関係者	家族のみ	関係者のみ	計
男	2	5	0	0	11	0	18
女	0	6	0	0	4	0	10
計	2	11	0	0	15	0	28

(2) 性別・来談者別相談件数 (延件数)

区 分		相談件数						計
		本人が来所	本人及び家族	本人及び関係者	本人、家族及び関係者	家族のみ	関係者のみ	
性 別	男	24	26	0	0	32	0	82
	女	0	20	0	0	5	0	25
	計	24	46	0	0	37	0	107

(3) 相談内容別相談経過 (実人数)

相談内容		相談経過							計
		終了	センター外来紹介	センターデイケア紹介	継続	医療機関紹介	その他の機関紹介	その他	
心の不調	a不安・抑うつ訴え	0	0	0	0	0	0	0	0
	b強迫的訴え	0	0	0	0	0	0	0	0
	c悲嘆反応・喪失感	0	0	0	0	0	0	0	0
	dPTSD	0	0	0	0	0	0	0	0
	eその他	2	0	0	1	0	0	0	3
体の不調	0	0	0	0	0	0	0	0	
家族の問題	a家庭内暴力	1	0	0	1	0	0	0	2
	bDV	0	0	0	1	0	0	0	1
	cその他	1	0	0	1	0	0	0	2
子育て・介護の問題	a出産・育児	0	0	0	0	0	0	0	0
	b虐待	0	0	0	0	0	0	0	0
	c介護の問題	0	0	0	0	0	0	0	0
	dその他	0	0	0	0	0	0	0	0
対人関係の問題	1	0	0	2	0	0	0	3	
生活・仕事・経済的な問題	a仕事・職場の問題	1	0	0	0	0	0	1	2
	b生活の問題	0	0	0	0	0	0	0	0
	cその他	0	0	0	1	0	0	1	2
学校の問題	aいじめ	0	0	0	0	0	0	0	0
	b不登校	3	0	0	5	0	0	1	9
	cその他	1	0	0	1	0	0	0	2
依存症の問題	aアルコール関連	0	0	0	0	0	0	0	0
	b薬物問題	0	0	0	0	0	0	0	0
	cギャンブル関連	0	0	0	0	0	0	0	0
	dその他	1	0	0	0	0	1	0	2
非行・反社会的行動	0	0	0	0	0	0	0	0	
病気・治療について	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	a自分の性格	0	0	0	0	0	0	0	0
	b性・異性	0	0	0	0	0	0	0	0
	cその他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	0	0	13	1	0	3	28	

XI 心の健康づくり推進事業

社会生活環境の複雑化等に伴い、ストレスなどによるノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大しているため、昭和62年11月から相談窓口を開設し、県民の精神的健康の保持増進に努めた。

1. 心の健康ダイヤル

(1) 相談種別ごとの電話のかけ手(延件数)

相談種別 \ かけ手	本人	家族	友人	その他	計
社会復帰	9(0)	0(0)	0(0)	0(0)	9(0)
アルコール	2(0)	10(0)	0(0)	0(0)	12(0)
薬物	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
思春期	17(0)	24(0)	1(0)	1(0)	43(0)
心の健康づくり	1,088(6)	40(2)	3(0)	4(1)	1,135(9)
うつ・うつ状態	85(1)	13(1)	1(0)	0(0)	99(2)
老人精神保健	0(0)	5(1)	1(0)	0(0)	6(1)
その他	1,113(7)	45(0)	3(0)	2(0)	1,163(7)
計	2,315(14)	137(4)	9(0)	7(1)	2,468(19)

※ () は震災に関する相談の再掲

(2) 相談種別による処遇内訳件数(延件数)

相談種別 \ 処遇内容	傾聴・助言	医療機関紹介	関係機関紹介	来所相談	計
社会復帰	7(0)	0(0)	2(0)	0(0)	9(0)
アルコール	10(0)	0(0)	2(0)	0(0)	12(0)
薬物	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
思春期	32(0)	6(0)	5(0)	0(0)	43(0)
心の健康づくり	1,087(8)	6(1)	39(0)	3(0)	1,135(9)
うつ・うつ状態	88(2)	4(0)	7(0)	0(0)	99(2)
老人精神保健	2(0)	2(1)	2(0)	0(0)	6(1)
その他	1,121(7)	9(0)	33(0)	0(0)	1,163(7)
計	2,348(17)	27(2)	90(0)	3(0)	2,468(19)

※ () は震災に関する相談の再掲

XII 自 死 対 策

1. 電話相談（全国統一ダイヤル相談含む）

「こころの電話相談」（専用回線による電話）で自死関連相談にも対応。

2. 多重債務無料相談会におけるこころの健康相談 2回3名

3. 啓発普及事業

(1) 市町村等における講話等への講師の派遣 2回

(2) 広報課みやぎ出前講座「働く人の心の健康～うつ病を中心に～」への講師派遣 9回（再掲）

(3) 自死対策啓発リーフレット「つながりを信じて」の発行

(5,000部作成，保健福祉事務所，市町村等関係機関に配布)

(4) 自殺対策強化月間（3月）全国一斉こころの健康相談統一ダイヤルをホームページにより周知

3. 人材育成

各自治体での自殺対策の推進をはかるため，行政関係者を対象に地域自死対策研修会2回，若年者メンタルヘルス対策研修会1回開催。（詳細はⅡ教育研修参照）

4. 自死遺族支援

自死遺族支援連絡会等への参加 5回

自死遺族支援シンポジウム開催 1回

全国自死遺族フォーラム2014への参加

5. 市町村などへの技術支援

自殺対策推進会議等における自殺対策に関するコンサルテーション（角田市，登米市，石巻市，東松島市）

6. 調査研究

「宮城県救急医療機関における自殺未遂者に関する実態調査」を実施（Ⅲ調査研究参照）

XIII 精神科外来診療

センターにおける事業の一環として、外来診療を実施し、精神障害者の治療にあたった。（精神科デイケアを含む）

(1) 月別外来件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療日数等	診療日数	21	20	21	22	21	20	22	17	19	18	18	19	238
	新患（実数）	0	0	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0	9
	全診療件数（延）	269	280	239	234	181	196	199	163	171	184	201	201	2,518
検査等	血液・尿検査	0	2	4	1	2	2	1	0	1	1	0	1	15
	院内処方箋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	院外処方箋	115	119	106	130	113	104	121	95	104	100	106	114	1,327

(2) 性別年代別新規外来患者件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

性別	年齢	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計
	男		1	20	18	6	5	6
女		5	22	18	16	7	2	70
計		6	42	36	22	12	8	126

(3) 性別年代別外来患者件数（延件数）

性別	年齢	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計
	男		10	336	297	147	69	60
女		64	774	393	177	165	26	1,599
計		74	1,110	690	324	234	86	2,518

(4) 保健福祉事務所別・年代別外来件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

管轄		年齢						計	割合%
		19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上		
仙	南	0	0	0	0	0	0	0	0.0
仙 台	塩 釜	0	0	2	0	0	0	2	1.6
	岩 沼 支 所	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	黒 川 支 所	0	2	1	1	0	1	5	4.0
北	部	4	30	22	15	8	7	86	68.3
北 部（栗原）		2	4	6	2	1	0	15	11.9
東 部（登米）		0	4	4	2	3	0	13	10.3
東	部	0	2	0	0	0	0	2	1.6
気	仙 沼	0	0	0	0	0	0	0	0.0
仙	台 市	0	0	0	2	0	0	2	1.6
県	外	0	0	1	0	0	0	1	0.8
計		6	42	36	22	12	8	126	100.0

(5) 診断結果別・年代別外来件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

診断名	年齢						計
	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	
アルコール関連障害	0	0	2	0	0	0	2
精神作用物質による精神障害	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症・統合失調症型障害	2	13	12	5	3	4	39
気分障害	2	12	15	12	8	2	51
神経症性障害	1	11	4	3	1	1	21
摂食障害	0	1	0	0	0	0	1
睡眠障害	0	0	0	0	0	1	1
人格及び行動障害	0	1	2	0	0	0	3
精神遅滞	0	1	0	0	0	0	1
青年期の行動・情緒の障害	1	2	1	0	0	0	4
脳器質性精神病	0	0	0	0	0	0	0
てんかん	0	1	0	0	0	0	1
身体疾患	0	0	0	2	0	0	2
計	6	42	36	22	12	8	126

XIV デイケア事業

当センターデイケアは、社会保険診療精神科デイケア施設基準（大規模、平成13年4月1日認可）に基づく施設である。精神疾患を有する人を対象に、集団療法、個別面接、家族面接などを通して、自己の障害に対する理解、自信の回復を深め、生活技術の向上、社会参加の促進を目的として実施した。対象者を概ね35歳以下としており、次のステップにむけての「通過型」として位置づけている。

1. デイケア

(1) 実施日数 178日 (前年 180日)

(2) 参加者の状況

1日平均出席者数 5.3人 (前年 8.8人)
出席者延数 943人 (前年 1,594人)

前年度からの 継続利用者 (人)	今年度 新規利用者 (人)	今年度利用者 (実数) (人)	終了者 (人)	次年度 継続利用者 (人)
24	7	29	8	23

(3) 参加者の年齢区分

(人)

年齢 性別	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上	計
	男	0	5	3	5	1
女	2	9	3	2	1	17
計	2	14	6	7	2	31

(4) 終了者の状況

(人)

	就職 復職	職親	就労移行・ 継続事業所	相談支援・ 地域活動支援 センター	授産施設・ 作業所	その他の 支援施設	就学 復学	家業 家事 (手伝い)	在宅	その他	計
男	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
女	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
計	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8

XVひきこもり地域支援センター事業

「宮城県ひきこもり地域支援センター」を平成26年1月6日に精神保健福祉センター内に開設し、ひきこもりに関する相談、家族会、研修等の事業を行った。

1. 来所相談

(1) 相談件数

	平成25年度 (H26.1~3)	平成26年度
新規相談実件数	7	29
継続相談実件数	10	20
合計(実件数)	17	49
相談者総数(延件数)	35	272

(2) 性別・来談者別相談件数(実人数)

性別	区分					計
	本人のみ	本人及び家族	家族のみ	関係者及び家族		
男	3	3	34	0		40
女	1	2	6	0		9
計	4	5	40	0		49

(3) 性別・年代別相談件数(実人数)

性別	区分						
	~19歳	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	11	16	10	3	0	0	40
女	2	4	0	3	0	0	9
計	13	20	10	6	0	0	49

(4) 処遇結果(実人数)

性別	処遇						
	助言・終了	センター 外来	継続	保健所紹介	医療機関 紹介	他機関紹介	計
男	4	0	36	0	0	0	40
女	0	1	8	0	0	0	9
計	4	1	44	0	0	0	49

2. 電話相談

(1) 性別・年齢別相談件数（延件数）

性別	年 齢								計
	14歳以下	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	年齢不詳	
男	0	17	25	27	6	2	0	1	78
女	0	6	4	7	6	2	0	1	26
不明	0	6	0	0	0	0	0	7	13
合計	0	29	29	34	12	4	0	9	117

(2) 職業別・年齢別相談件数（延件数）

職業別	年 齢	年 齢								計
		14歳以下	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	年齢不詳	
学 生	生	0	8	4	0	0	0	0	0	12
会 社 員	員	0	1	0	1	1	1	0	0	4
自 営 業	業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アルバイト・パート		0	0	1	0	0	0	0	1	2
主婦	婦	0	0	0	2	0	0	0	0	2
その他	他	0	0	1	1	0	1	0	0	3
無職	職	0	19	18	28	11	1	0	0	77
不明	明	0	1	5	2	0	1	0	8	17
計		0	29	29	34	12	4	0	9	117

(3) 電話のかけ手（延件数）

かけ手	本人	家族	友人	その他	計
	35	63	0	19	117

(4) 処遇内訳件数（延件数）

処遇内容	助言指導	来所予約	医療機関紹介	その他の機関紹介	計
	68	27	2	20	117

3. 青年期（ひきこもり）家族会

ひきこもり等の問題を抱える家族を対象に家族会を実施した。

	回数	参加家族数	参加実件数	参加延件数
平成26年度	12	31	39	213

会の前半は講話・勉強会、後半はグループに分かれ近況報告・情報交換を実施。
 社会福祉法人わたげ福祉会 秋田敦子氏、奥野潔和氏の協力を得て家族会を運営している。

4. 研修会

ひきこもり等支援を行っている関係者を対象にひきこもりの理解と支援についての研修会を行った。

研修名	対象	内容	開催期日	参加人数
ひきこもり等支援関係者研修基礎講座	市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①講話「ひきこもりの理解と支援」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②講話「当事者の立場から」 講師：当事者及び家族	平成26年 8月7日(木)	70人
ひきこもり等支援関係者研修実践講座	市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①講話「ひきこもりにおける家族支援」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②事例検討 助言者： 当センター 精神科医 水本有紀 社会福祉法人わたげ福祉会 理事長 秋田敦子氏	平成27年 1月21日 (水)	38人

5. 関係機関とのネットワークづくり

石巻地域のひきこもり支援に関わる団体・機関で構成する、石巻地域不登校・ひきこもり支援ネットワークに参加し、現状や課題の共有と、対応を検討するための会議を6回行った。

また、ネットワーク主催で不登校・ひきこもりに関する研修会を開催した。

研修名	対象	内容	開催期日・会場	参加人数
石巻圏域ひきこもり等支援関係者研修	石巻圏域の市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①講話「ひきこもりの理解と支援」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②情報交換 石巻圏域の活動団体紹介 発表団体： 日本医療社会福祉協会 NPO法人 TEDIC K2インターナショナル	平成26年 12月8日 (月) 東松島高等学校	56人

6. その他

- ①市町村におけるひきこもり相談支援に関する現況調査を実施し、ひきこもり相談の現状及び課題を把握した。
- ②関係者支援として、市町村が開催する事例検討会に助言者として職員を派遣(1回)した。
- ③ひきこもり地域支援センターのリーフレット及びサポートブックを相談者、関係機関に配布した。
- ④ひきこもり支援関連情報を収集し、ホームページに掲載した。
- ⑤所内でひきこもり地域支援センター運営会議及び全体会議を月1回開催し、運営等について検討を行った。

